



## ★ YABOOKご紹介 ★

### 『ぼく モグラ キツネ 馬』

一般書 726 マ チャーリー・マッケジー / 著 川村 元気 / 訳 飛鳥新社

ひとりぼっちの【ぼく】。 食いしん坊の【モグラ】。 寡黙な【キツネ】。  
おだやかで大きな【馬】。 彼らが出会ったとき、セカイは愛でつつまれる。  
生きてると、さまざまなことがある。楽しいこと、悲しいこと、苦しいこと…  
壁にぶつかって“自分”を見失うことも一。 そんなとき、この本を開いてほしい。  
【ぼく】が【モグラ】に問いかける…あるこたえから、“完璧”を求めすぎてボロボロになっていた過去を思い出し 鼻の奥がツンとした。  
目に見える姿、形が異なるように 内面の弱さや悩みも人それぞれ。 それでもどこかリンクする彼らに勇気をもたらえるはず。

b y [Mo7]

## ★ 図書館員のひと一言 ★

「 あっ、という間に 」

気が付けばもう2月になりますね。相変わらずの寒さに皆さん身を縮こまらせていらっしゃるのでしょうか。

オミクロン株のせいか、またあっという間に新型コロナが大流行することになり、図書館では毎週ご好評いただきながら実施していますおはなし会や、今月に予定していた野菜づくり講座などのイベントも、残念ながら中止しなければならなくなりました。

そんな中ですが、世間では受験シーズン、1次試験を終えて、2次試験に挑む方が多い時期でしょうか。図書館でも日々勉強のために多くの学生さんたちにご利用いただいております。

本来であれば、受験に向けて気持ちを整えながら備えることが出来たことと思いますが、この時勢、受験そのものならず日常生活に対しても不安を抱えながら試験に臨まなければならなくなりました。厳しい状況が続いていますが、受験生の皆さんには、逆境を跳ね除けて立ち向かってほしいです。

学生さんだけでなく、周囲の方々や、もちろん私たち図書館の職員もマスクの着用とアルコール消毒を忘れず、また基本的な手洗いうがいの欠かさずに行って、皆で感染対策をしていきましょう！

b y きなこもち

## ◇ 黄色い夏の日 ◇

児童書 913タ 高橋 方子 / 著 福音館書店

美術部の作品を描くため、悠介は自分が描きたい一軒の家の前に立っていた。ちいさな洋館にかかった表札が、自分の祖母が入院していた時、同室だったおばあさんと同じ変わった苗字と同じだということに気が付いた。その時、家の中から出てきたのは、まさにその人だった。電球の交換をお願いされて家の中に入ると、不思議な少女に出会い、そのまま彼女をスケッチした悠介は…。

★木村彩子さんの水彩画もステキな一冊です。

by ビクトリア

## ◇ 王さまのお菓子 ◇

児童書 Eオウ 石井 睦美 / 文 くらはし れい / 絵 世界文化ブックス

フランスで、“王さまのお菓子”という新年に食べられるパイがあります。その中にはフェーヴと呼ばれる小さな陶器の置物が入っていて、それに当たった人は幸せになれると言われています。

フェーヴの人形ミリーは、パティシエのブランさんが作ったパイの中に入っていました。そのパイが買われていった家には、男の子の兄弟と、その家に預けられている女の子がいました。ミリーは、「女の子に当たるといいな」と思いました。でも、ミリーが入ったパイを当てたのは…。

読んだあと、幸せな気持ちになれるお話です。くらはしれいさんの挿絵も素敵な一冊です。

by みーやん

## ◇ すてきなテーブル ◇

児童書 Eステ ピーター・レイノルズ / 絵・文 新評論

家族みんなで思い出をつくったテーブル。でも今は、ヴァイオレットひとりでテーブルをつくようになった。みんなとっても忙しく、別々の居場所ができたのだ。家族のそれぞれがテレビやスマホ、タブレットをみているのだ。自分はひとりぼっちだと思い、あのテーブルに家族が再び集う日を夢にみるヴァイオレットは…。

絵本の色合いにも注目な現代家族の物語の絵本です。

by オレンジ

## ◇ 14歳からの個人主義 自分を見失わずに生きるための思想と哲学 ◇

一般書 151MY 丸山 俊一 / 著 大和書房

いつも思っていた。「みんな言ってる。」の「みんな」って誰だ？

私たちは人間だから、「主体」性があり、感情があり、集団の中に生きている。心持ちひとつで成長したり、自分で自分を追い込んだりする。

人の中にいれば「個」であり「全体」でもあるが、自然の中に組み込まれば、またちがう見方が生まれる。彷徨っている。明確になる。わからなくなる。自ずと拓ける（ってゆーけどホントかな？）。

忘れずにいたい、自分が何を知っているのかということ。何を知らなくて、何を求めているのかということ。

by ミカゲ

◇ 青嵐の庭にすわる 「日日是好日」物語 ◇  
一般書 778モ 森下 典子 / 著 文芸春秋

映画「日日是好日」の原作者 森下典子さんは、茶道指導者として映画制作に参加しました。映画化決定当初は、「原作者として一度は撮影を見せてもらおう。差し入れは、和菓子がいいな。そうだ、黒木華さんや樹木希林さんと一緒に記念撮影させてもらおう…」などと考えていました。しかし、監督をはじめ映画スタッフの誰一人として茶道の経験がなかったことから、いきなり森下さんが制作スタッフに加わることになったのです。

この本には、映画化が決定した時のことや、女優 樹木希林さんのこと、撮影現場でのエピソードなどが綴られています。読後に映画を観るのもお勧めです。 by みーやん

◇ あなたに安全な人 ◇

一般書913.6キム 木村 紅美 / 著 河出書房新社

この小説は、東京で新型コロナウイルスが拡大し始めたころに、北国の田舎町に3人ばらばらに、帰京してきたことから始まります。面識は全くない3人でした。

そのうち1人は、東京から来たということだけで、入居予定のマンションの住人たちから、別の場所で隔離後に入居するよう抗議され、結果老朽化した空き家の2階で、亡くなっているところを発見されました。

死因は発表されないことから、憶測が憶測を呼んでいきました。

あとの男女2人は、さてどうなっていったのでしょうか。

by チャーミー

「おはなし会」中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月の「おはなし会」は、すべて中止といたします。

3月以降の予定については、図書館ホームページ等でお知らせいたします。

「スタンプラリー」開催中です！

本を借りて、スタンプを6つ集めた方に、プレゼントを差し上げています。期間は、2月27日（日）までです。ぜひ、ご参加ください。

うめの花

宮沢 章二

うめの花が さいたら

春だつてさ

ぬまに 氷が はつても

やっぱり 春だつてさ

春は 風のおいで

わかるつてさ

うめのつぼみが その風の

においを 知ってるつてさ

うめの花が さいたら

春だつてさ

耳のしもやけ かゆくても

やっぱり 春だつてさ

